

授業計画(シラバス)

科目名	建築計画 I	指導担当者名	五十嵐 信子
実務経験	住宅メーカーにてインテリアコーディネート業務に9年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	人体動作寸法、各部寸法、モジュール、住宅の機能、各室の計画、空間内心理、色彩計画等を学習し、トータルな建築物の計画を行うことを目標とする。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい建築計画」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	1-1 建築計画の基本知識	単位と寸法
	2	1-1 建築計画の基本知識	建築計画の進め方の基本
	3	1-2 各部および単位空間の計画	各部の計画
	4	1-2 各部および単位空間の計画	単位空間の計画
	5	2-1 独立住宅の計画	独立住宅における平面計画と配置計画の原則
	6	2-1 独立住宅の計画	独立住宅における諸室の計画
	7	2-1 独立住宅の計画	独立住宅の平面形式
	8	2-1 独立住宅の計画	独立住宅の事例・演習
	9	2-1 独立住宅の計画	独立住宅の工法
	10	2-1 独立住宅の計画	独立住宅の演習
	11	2-3 集合住宅の計画	集合住宅の形式と分類
	12	2-3 集合住宅の計画	集合住宅の計画上の要点
	13	2-3 集合住宅の計画	集合住宅の事例・演習
	14	2-3 集合住宅の計画	集団住宅地の計画
	15	2-3 集合住宅の計画	集合住宅の演習
	16	2-3 集合住宅の計画	集合住宅の演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築計画 I	指導担当者名	五十嵐 信子
実務経験	住宅メーカーにてインテリアコーディネート業務に9年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	人体動作寸法、各部寸法、モジュール、住宅の機能、各室の計画、空間内心理、色彩計画等を学習し、トータルな建築物の計画を行うことを目標とする。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい建築計画」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	2-3 小学校の計画	小学校の構成・授業運営方式・計画上の要点
	2	2-3 小学校の計画	小学校の授業運営方式
	3	2-3 小学校の計画	小学校に関する計画上の要点
	4	2-3 小学校の計画	小学校の実例分析・その他留意事項
	5	2-3 小学校の計画	中学校・高等学校の計画上の要点
	6	2-3 小学校の計画	演習問題
	7	2-4 幼稚園・保育所の計画	幼稚園・保育所の構成
	8	2-4 幼稚園・保育所の計画	幼稚園・保育所の諸室および重要事項
	9	2-4 幼稚園・保育所の計画	幼稚園・保育所の実例分析
	10	2-4 幼稚園・保育所の計画	幼稚園・保育所のその他の留意事項
	11	2-4 幼稚園・保育所の計画	演習問題
	12	2-5 図書館の計画	図書館の構成
	13	2-5 図書館の計画	図書館の計画に関する最重要事項
	14	2-5 図書館の計画	図書館の諸室および重要事項
	15	2-5 図書館の計画	図書館の実例分析
	16	2-5 図書館の計画	図書館の実例分析
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築法規 I	指導担当者名	水上 剛
実務経験	建築設計事務所にて建築設計・監理業務に6年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	企画・設計・施工・保守まで建築生産の法律の占める割合は大きい。 最低限守らなければならないルールとして主に建築基準法の解説・演習を行い、法律用語の解釈から計画の具体的運用など学ぶ。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい建築法規」「建築関係法令集」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	1章 建築基準法の基礎知識	はじめに・基本定義
	2	1章 建築基準法の基礎知識	建築基準法に関わる手続き
	3	1章 建築基準法の基礎知識	建築基準法の一部が適用されない建築物
	4	1章 建築基準法の基礎知識	敷地・面積・高さ等①
	5	1章 建築基準法の基礎知識	敷地・面積・高さ等②
	6	1章 建築基準法の基礎知識	演習問題
	7	2章 室内環境と安全	採光に関する基準①
	8	2章 室内環境と安全	採光に関する基準②
	9	2章 室内環境と安全	換気に関する基準①
	10	2章 室内環境と安全	換気に関する基準②
	11	2章 室内環境と安全	構造に関する基準(天井高さ・床高さ)
	12	2章 室内環境と安全	構造に関する基準(地階の住宅等の居室・長屋・共同住宅の各戸の界壁)
	13	2章 室内環境と安全	構造に関する基準(階段・傾斜路・適用外階段)
	14	2章 室内環境と安全	設備に関する基準(便所)
	15	2章 室内環境と安全	設備に関する基準(給排水設備)(電気設備・避雷設備・昇降機設備)
	16	2章 室内環境と安全	設備に関する基準(給排水設備)(電気設備・避雷設備・昇降機設備)
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築法規 I	指導担当者名	水上 剛
実務経験	建築設計事務所にて建築設計・監理業務に6年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	企画・設計・施工・保守まで建築生産の法律の占める割合は大きい。 最低限守らなければならないルールとして主に建築基準法の解説・演習を行い、法律用語の解釈から計画の具体的運用など学ぶ。		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい建築法規」「建築関係法令集」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	都市計画区域等
	2	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	道路の定義
	3	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	用途地域による建築制限(用途地域)
	4	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	用途地域による建築制限(大規模集客施設)
	5	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	用途地域による建築制限(自動車車庫)
	6	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	面積の制限(容積率)
	7	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	面積の制限(容積率)
	8	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	面積の制限(建蔽率)
	9	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	面積の制限(外壁の後退距離)
	10	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	高さの制限
	11	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	高さの制限(道路斜線)
	12	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	高さの制限(隣地斜線・北側斜線)
	13	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	高さの制限(天空率・日影規制)
	14	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	防火地域・準防火地域の建築制限(防火地域)
	15	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	防火地域・準防火地域の建築制限(準防火地域)
	16	3章 都市計画区域等による建築物の形態制限	防火地域・準防火地域の建築制限(準防火地域)
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	構造力学 I	指導担当者名	池田 時好
実務経験	構造設計事務所にて構造設計業務に15年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築物は自らの重量や私達自身や生活上の積載物、地震や風などの外力に対して安全でなければならない。ここでは、構造計算に必要な算術計算から始まり、力の基礎、釣り合い、反力、部材に生じる力について学習する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい構造力学」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	構造力学に必要な算術計算	必要となる基礎的な算術計算を復習する
	2	構造力学に必要な算術計算	必要となる基礎的な算術計算を復習する
	3	力の基礎「力」	表現・符号・効果・単位・演習問題
	4	「力のモーメント」	モーメント・符号・距離の見極め方
	5	「力のモーメント」	モーメント・符号・距離の見極め方
	6	「合力」	合力とは・1点に作用する力の合力
	7	「合力」	平行に並ぶ合力
	8	「分布荷重」	分布荷重とは・合力
	9	「分布荷重」	演習問題
	10	力の釣り合い	力の釣り合いとは・回転をとまなう力の釣り合い
	11	力の釣り合い	演習問題
	12	反力	反力について
	13	反力	構造物の支え方
	14	反力	単純梁の反力・片持ち梁の反力
	15	反力	張り出し梁の反力・ラーメンの反力
	16	反力	演習問題
	17		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	構造力学 I	指導担当者名	池田 時好
実務経験	構造設計事務所にて構造設計業務に15年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築物は自らの重量や私達自身や生活上の積載物、地震や風などの外力に対して安全でなければならない。ここでは、構造計算に必要な算術計算から始まり、力の基礎、釣り合い、反力、部材に生じる力について学習する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい構造力学」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	部材に生じる力(基礎編)	部材に生じる力の解説
	2	部材に生じる力(基礎編)	単純梁に生じる力(集中荷重の場合)
	3	部材に生じる力(基礎編)	(分布荷重の場合)
	4	部材に生じる力(基礎編)	(モーメント荷重の場合)
	5	部材に生じる力(基礎編)	片持ち梁に生じる力(集中荷重の場合)
	6	部材に生じる力(基礎編)	演習問題①
	7	部材に生じる力(基礎編)	演習問題②
	8	部材に生じる力(実践編)	せん断力図を描く方法(集中荷重の場合)
	9	部材に生じる力(実践編)	(分布荷重の場合、モーメント荷重の場合)
	10	部材に生じる力(実践編)	曲げモーメント図の特徴・描き方
	11	部材に生じる力(実践編)	集中荷重・分布荷重
	12	部材に生じる力(実践編)	モーメント荷重
	13	部材に生じる力(実践編)	実戦例題①
	14	部材に生じる力(実践編)	実戦例題②
	15	部材に生じる力(実践編)	実戦例題③
	16	部材に生じる力(実践編)	実戦例題④
	17		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	一般構造	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築物は人々が快適で安全に生活できるように造られている。 厳しい自然環境や人工環境に対してもその役割を十分に果たしている。 ここではこれからの目的にかなう建築物の構成・使用材料・工法・維持そしてそれから技術の足跡について学び、建築物の性能を満足させる方法論・知識などを木構造とその他の構造に二分して習得する。		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	テキスト 学芸出版社「図説 やさしい一般構造」・授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	建物にはたらく力と構造計画	ガイダンス
	2	「建物にはたらく力」	長期荷重と短期荷重
	3	「建物にはたらく力」	応力と許容応力
	4	「地震に対する対策」	地震の歴史と法律の制度・設計上の注意事項
	5	「地震に対する対策」	地震に効果的な構造・耐震補強が必要な建物の診断
	6	「建物全体の構造計画」	建築構造の分類・構造計画
	7	木構造 「木材」	特徴・木質材料
	8	「木構造の基礎知識」	特徴・構造形式
	9	「在来工法」	基礎・地業
	10	「在来工法」	軸組(土台・柱・横架材・筋交い・壁・接合部)
	11	「在来工法」	柱頭。柱脚金物の設置基準
	12	「在来工法」	耐力壁(壁量計算・配置)
	13	「在来工法」	小屋組(種類と特徴・和小屋組・洋小屋組)
	14	「在来工法」	床組・階段・接合部
	15	「枠組壁工法」	材料と使用箇所
	16	「枠組壁工法」	各部の構造
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	一般構造	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築CAD設計科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>建築物は人々が快適で安全に生活できるように造られている。 厳しい自然環境や人工環境に対してもその役割を十分に果たしている。 ここではこれからの目的にかなう建築物の構成・使用材料・工法・維持そしてそれから技術の足跡について学び、建築物の性能を満足させる方法論・知識などを木構造とその他の構造に二分して習得する。</p>		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「図説 やさしい一般構造」・授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	鉄骨造 「鋼材」	特徴・分類・性質・応力度とひずみ度・強度・形状
	2	「鉄骨造の基礎知識」	鉄骨造の特徴・構造形式
	3	「鉄骨構造」	接合(リベット・ボルト・高力ボルト)
	4	「鉄骨構造」	溶接接合
	5	「鉄骨構造」	部材の設計
	6	「鉄骨構造」	各部の構造(梁・柱・柱と梁の仕口)
	7	「鉄骨構造」	(筋交い・柱脚)・床板・階段・耐火被覆
	8	鉄筋コンクリート造 「コンクリートと鉄筋」	特徴・材料・強度
	9	鉄筋コンクリート造 「コンクリートと鉄筋」	硬化前の性質・硬化後の性質・鉄筋の特徴
	10	「鉄筋コンクリート造の基礎知識」	構造計画の注意事項・鉄筋コンクリート造の原理
	11	「鉄筋コンクリート構造」	鉄筋の配筋計画(フック・定着・継手・かぶり厚さ・あき)
	12	「鉄筋コンクリート構造」	各部の構造
	13	「壁式鉄筋コンクリート造」	特徴・材料
	14	その他の構造「SRC造」	特徴・各部の構造
	15	「補強コンクリートブロック造」	特徴・材料・各部の構造
	16	「補強コンクリートブロック造」	特徴・材料・各部の構造
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築環境	指導担当者名	佐澤 克郎
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に19年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築における日照・日射環境、光環境、色彩環境、空気環境等の原理を学び、快適な室内環境の創造のために知識を習得する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「図説 やさしい建築環境」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	建築環境	建築環境についてガイダンス
	2	光環境 「照明」	視覚・照度と輝度
	3	光環境 「照明」	昼光・人工照明
	4	光環境 「照明」	照明計画
	5	「色彩」	色の表示・表色・色の名称・色の効果
	6	温熱環境 「温度と熱移動」	熱の移動・熱が伝わるしくみ・熱伝達
	7	温熱環境 「温度と熱移動」	熱伝導・熱貫流量
	8	「室温と熱負荷」	室温の変動・室内外への熱の出入り
	9	「室温と熱負荷」	断熱性能
	10	「湿度と結露」	湿度・結露
	11	「体感温度」	環境と人体の熱平衡
	12	「体感温度」	温熱環境指標
	13	「太陽と日射」	日射の必要性・太陽位置
	14	「太陽と日射」	日照・日影
	15	「太陽と日射」	日射
	16	「太陽と日射」	日射
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築環境	指導担当者名	佐澤 克郎
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に19年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築CAD設計科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築における日照・日射環境、光環境、色彩環境、空気環境等の原理を学び、快適な室内環境の創造のために知識を習得する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「図説 やさしい建築環境」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	空気環境 「室内の空気を汚染する物質」	換気の方法
	2	空気環境 「室内の空気を汚染する物質」	シックハウス症候群・空気の性質
	3	「自然換気」	風圧力による換気・温度差による換気
	4	「自然換気」	換気風量の計算
	5	「機械換気」	機械換気方式の種類
	6	「換気計画」	全般換気と局所換気・換気経路
	7	「換気計画」	そのたの換気方式・気密性能
	8	「通風」	演習問題
	9	音環境 「音の性質」	音のしくみ・音の単位
	10	音環境 「音の性質」	音のレベル表示
	11	音環境 「音の性質」	聴覚と音の生理・心理・音の伝搬
	12	「室内の音」	室内で発生する音の種類・音の伝わり方
	13	「室内の音」	吸音・遮音
	14	「室内の音」	壁、床の遮音等級
	15	「室内の音響」	残響・反響
	16	「室内の音響」	残響・反響
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築史	指導担当者名	五十嵐 信子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築の歴史を知り、建築と社会、都市と建築、時代や民族、気候や材料の関係をどのように築いてきたかを検討し、これからの建築について考える。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 彰国社「コンパクト版 建築史【日本・西洋】」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	日本建築史	竪穴式住居と高床式建物
	2	日本建築史	竪穴式住居と高床式建物
	3	日本建築史	古代の神社建築・仏教建築
	4	日本建築史	古代の神社建築・仏教建築
	5	日本建築史	古代の都市計画と住宅・浄土教の建築
	6	日本建築史	古代の都市計画と住宅・浄土教の建築
	7	日本建築史	古代の都市計画と住宅・浄土教の建築
	8	日本建築史	中世の建築
	9	日本建築史	中世の建築
	10	日本建築史	書院造・数寄屋
	11	日本建築史	書院造・数寄屋
	12	日本建築史	近世の社寺建築・民家
	13	日本建築史	近世の社寺建築・民家
	14	日本近代建築史	西洋文化の移入・日本建築家
	15	日本近代建築史	都市計画及び構造技術の発展
	16	日本近代建築史	モダニズム建築・高度成長期
履修上の留意点			
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築史	指導担当者名	五十嵐 信子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築の歴史を知り、建築と社会、都市と建築、時代や民族、気候や材料の関係をどのように築いてきたかを検討し、これからの建築について考える。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 彰国社「コンパクト版 建築史【日本・西洋】」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	1	西洋建築史	エジプト・オリエント・ギリシア・ローマ建築
	2	西洋建築史	エジプト・オリエント・ギリシア・ローマ建築
	3	西洋建築史	エジプト・オリエント・ギリシア・ローマ建築
	4	西洋建築史	キリスト教・ビザンティン・イスラム建築
	5	西洋建築史	キリスト教・ビザンティン・イスラム建築
	6	西洋建築史	キリスト教・ビザンティン・イスラム建築
	7	西洋建築史	ロマネスク・ゴシック・ルネサンス・バロック建築
	8	西洋建築史	ロマネスク・ゴシック・ルネサンス・バロック建築
	9	西洋建築史	ロマネスク・ゴシック・ルネサンス・バロック建築
	10	西洋近代建築史	都市問題・住宅問題・アールヌーヴォ
	11	西洋近代建築史	都市問題・住宅問題・アールヌーヴォ
	12	西洋近代建築史	都市問題・住宅問題・アールヌーヴォ
	13	西洋近代建築史	アメリカ建築
	14	西洋近代建築史	アメリカ建築
	15	西洋近代建築史	鉄筋コンクリート造・近代建築・ポストモダニズム建築
	16	西洋近代建築史	鉄筋コンクリート造・近代建築・ポストモダニズム建築
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築生産	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	建築の構造や材料、環境や計画など幅広い知識を習得し、建設行為の生産マネジメントから施工・維持管理などについて幅広く習得する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 建築資料研究社「建築施工管理テキスト」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	施工計画「施工管理の概要」	基本事項・目的
	2	「施工計画の基本」	施工計画の定義・目的・施工計画立案の基本方針・事前調査
	3	「施工計画の基本」	主な工事の施工計画・施工計画書の作成・作業計画
	4	「申請・届出」	建築基準法関係
	5	「申請・届出」	労働安全衛生法関係・その他
	6	工程管理「工程管理の基本と工程計画」	工程管理の基本・工程計画
	7	「工程図表の種類」	工程図表・横線式工程表・曲線式工程表
	8	「工程図表の種類」	ネットワーク式工程表・各種工程表の主な比較
	9	「ネットワーク式工程表の基本」	基本事項・日程計算・余裕時間・クリティカルパス
	10	品質管理「品質管理の基本」	品質管理の目的・進め方・手順
	11	品質管理「品質管理の基本」	品質計画・主な品質管理用語
	12	「品質改善の7つ道具」	QCの7つ道具・ヒストグラム・管理図
	13	「品質改善の7つ道具」	特性要因図・パレート図・散布図
	14	「品質検査」	全数検査・抜取検査・無試験検査
	15	安全管理「労働災害」	労働災害発生状況・発生率・事故報告
	16	「安全衛生活動」	用語・安全施工サイクル
	17		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築製図 I	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	建築物の設計・施工をする上で必要な設計図を描く為の基礎演習で、木造住宅を主たる題材としていろいろな線、文字、記号等を作図しながら建築図面を理解していく。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 市ヶ谷出版「超入門 建築製図 第五版」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	製図の基礎	建築製図の基本ルールを学ぶ
	2	製図のルール	線・文字
	3	製図のルール	寸法線・製図記号
	4	図面の概要	図面とは・設計プロセスと図面
	5	図面の概要	エスキースから図面へ
	6	木造住宅の図面 配置図兼1階平面図	配置図・平面図とは・描き方の手順・作図
	7	木造住宅の図面 配置図兼1階平面図	配置図兼1階平面図の作図
	8	木造住宅の図面 配置図兼1階平面図	配置図兼1階平面図の作図
	9	木造住宅の図面 配置図兼1階平面図	配置図兼1階平面図の作図
	10	2階平面図	2階平面図での注意・描き方の手順・作図
	11	2階平面図	2階平面図の作図
	12	2階平面図	2階平面図の作図
	13	断面図	断面図とは・描き方の手順・作図
	14	断面図	断面図とは・描き方の手順・作図
	15	断面図	断面図とは・描き方の手順・作図
	16	断面図	断面図とは・描き方の手順・作図
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築製図 I	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築CAD設計科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	建築物の設計・施工をする上で必要な設計図を描く為の基礎演習で、木造住宅を主たる題材としていろいろな線、文字、記号等を作図しながら建築図面を理解していく。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 市ヶ谷出版「超入門 建築製図 第五版」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	立面図	立面図とは・描き方の手順・作図
	2	立面図	立面図とは・描き方の手順・作図
	3	立面図	立面図とは・描き方の手順・作図
	4	矩計図	矩計図とは・各部名称
	5	矩計図	描き方の手順・作図
	6	矩計図	描き方の手順・作図
	7	矩計図	描き方の手順・作図
	8	矩計図	描き方の手順・作図
	9	矩計図	描き方の手順・作図
	10	伏図	伏図とは・描き方の手順・作図
	11	伏図	伏図の作図
	12	伏図	伏図の作図
	13	伏図	伏図の作図
	14	伏図	伏図の作図
	15	伏図	伏図の作図
	16	伏図	伏図の作図
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	設計演習 I	指導担当者名	高橋 悟
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に17年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	住宅から前提条件が増えたり、テーマ性がよい社会的となったり、完成された形態に芸術性を求めたりという具合に公共性、総合性を設計行為を通じて演習を行う。個人で設計をした建築物を模型を作り、建物の構造を知る。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	配布資料を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	ガイダンス	設計の考え・心構え
	2	設計の基本知識	基本グリッド・モジュールについて
	3	設計の基本知識	基本グリッド・モジュールについて
	4	設計の基本知識	動線計画・ゾーニング・エスキースについて
	5	設計課題「平屋 住空間の設計」	課題の出題と説明
	6	設計課題「平屋 住空間の設計」	ゾーニングの検討・エスキース
	7	設計課題「平屋 住空間の設計」	ゾーニングの検討・エスキース
	8	設計課題「平屋 住空間の設計」	配置図・平面図・断面図の設計
	9	設計課題「平屋 住空間の設計」	配置図・平面図・断面図の設計
	10	設計課題「平屋 住空間の設計」	配置図・平面図・断面図の設計
	11	設計課題「平屋 住空間の設計」	スタディ模型制作・検討
	12	設計課題「平屋 住空間の設計」	スタディ模型制作・検討
	13	設計課題「平屋 住空間の設計」	プレゼンボードの作成
	14	設計課題「平屋 住空間の設計」	プレゼンボードの作成
	15	設計課題「平屋 住空間の設計」	プレゼンテーションの基本と練習
	16	設計課題「平屋 住空間の設計」	プレゼンテーション
履修上の留意点			
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	設計演習 I	指導担当者名	高橋 悟
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に17年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築CAD設計科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	住宅から前提条件が増えたり、テーマ性がよい社会的となったり、完成された形態に芸術性を求めたりという具合に公共性、総合性を設計行為を通じて演習を行う。個人で設計をした建築物を模型を作り、建物の構造を知る。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	配布資料を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	1	設計課題「2階建 住空間の設計」	課題の出題と説明
	2	設計課題「2階建 住空間の設計」	ゾーニングの検討
	3	設計課題「2階建 住空間の設計」	ゾーニングの検討
	4	設計課題「2階建 住空間の設計」	ゾーニングの検討
	5	設計課題「2階建 住空間の設計」	配置図・平面図・断面図の設計
	6	設計課題「2階建 住空間の設計」	配置図・平面図・断面図の設計
	7	設計課題「2階建 住空間の設計」	配置図・平面図・断面図の設計
	8	設計課題「2階建 住空間の設計」	スタディ模型制作・検討
	9	設計課題「2階建 住空間の設計」	スタディ模型制作・検討
	10	設計課題「2階建 住空間の設計」	スタディ模型制作・検討
	11	設計課題「2階建 住空間の設計」	プレゼンボードの作成
	12	設計課題「2階建 住空間の設計」	プレゼンボードの作成
	13	設計課題「2階建 住空間の設計」	プレゼンボードの作成
	14	設計課題「2階建 住空間の設計」	プレゼンボードの作成
	15	設計課題「2階建 住空間の設計」	プレゼンテーションの基本と練習
	16	設計課題「2階建 住空間の設計」	プレゼンテーション
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	CAD実習	指導担当者名	近内 広樹
実務経験	建設会社にて施工管理業務に5年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	CADの操作および指定された図形を確実に入力する実務知識を習得し、建築図面をCADを用いて作成できることを目標とする。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「最短で学ぶJW_CAD建築製図」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	建築CADの概要	建築CADとは・建築生産とコンピュータの利用・ソフトウェアについて・JWWIについて・インストール
	2	基本操作	線・矩形・円・複線・伸縮
	3	基本操作	文字・寸法・移動・複写
	4	正しく作図するには	レイヤ・寸法・空間と縮尺
	5	作図と編集の練習	編集問題
	6	実践編 建築図面のルール	建築図面の種類・建築要素の表現
	7	木造住宅平面図の作成	通芯・壁・開口・階段
	8	木造住宅平面図の作成	設備備品・寸法・部屋名
	9	立面図の作成	基準線・基礎・壁・建具・寸法等・図面を仕上げる
	10	立面図の作成	基準線・基礎・壁・建具・寸法等・図面を仕上げる
	11	課題①	通り芯・寸法・図面記号
	12	課題①	通り芯・寸法・図面記号
	13	課題②	柱・壁
	14	課題②	柱・壁
	15	課題③	階段・開口部
	16	課題③	階段・開口部
	履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施		

授業計画(シラバス)

科目名	BIM実習	指導担当者名	高橋 龍太郎
実務経験	建築設計事務所にて設計業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	BIMの基本操作から学び指定されたモデルを作成、実務で必要となる基本知識を習得する。 最終的には、他の授業で設計をした課題をBIMを用い、課題の制度を上げより高度な技術を習得する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	BIMの概要	BIMとは・建築生産とコンピュータの利用・ソフトウェアについて・インストール
	2	基本操作・環境設定	画面の構成・用語と概念
	3	1階のモデル作成	通り芯・柱と梁の作成
	4	1階のモデル作成	外壁・間仕切り壁の作成
	5	1階のモデル作成	ドア・窓・スラブ・階段の設置
	6	2階のモデル作成	コピー・ペースト・2階部分の作成
	7	2階のモデル作成	梁の編集・手すりの設置
	8	モデルから図面へ	面積表・立面図の作成
	9	モデルから図面へ	断面図・平面図の作成
	10	モデルから図面へ	外構・レンダリング
	11	課題制作	住宅課題の制作①
	12	課題制作	住宅課題の制作①
	13	課題制作	住宅課題の制作①
	14	課題制作	住宅課題の制作②
	15	課題制作	住宅課題の制作②
	16	課題制作	住宅課題の制作②
	17		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築プレゼンテーション	指導担当者名	増子 順一
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に15年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	建築設計においては複雑な形態の把握、構想、図面、模型等による形態表現力を必要とする。 建築設計の芸術的側面について、基礎を身につけるために制作の演習を通して形態、素材、色彩、表現方法等を習得しそれを様々な方法で伝えるプレゼンテーション能力を身につける。		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	授業時間内の資料配布・パソコン・Ipad		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ガイダンス	設計の考え・心構え・プレゼンの重要性について
	2	設計の基本知識	基本グリッド・モジュール・標準寸法について
	3	設計の基本知識	設計の進め方について・オンライン授業やIpadを活用した授業について
	4	住宅設備	便所の空間について(寸法・備品)
	5	住宅設備	便所の設計(展開図作成)・Ipadを活用したプレゼンテーション
	6	住宅設備	洗面脱衣所の空間について(寸法・備品)
	7	住宅設備	洗面脱衣所の設計(展開図作成)・Ipadを活用したプレゼンテーション
	8	住宅設備	浴室の空間について(寸法・備品)
	9	住宅設備	浴室の設計(展開図作成)・Ipadを活用したプレゼンテーション
	10	住宅設備	台所の空間について(寸法・備品)
	11	住宅設備	台所の設計(展開図作成)・Ipadを活用したプレゼンテーション
	12	住宅設計	居間・食事室・寝室・子供部屋の空間と設計
	13	住宅設計	ヒヤリング
	14	住宅設計	プランニング
	15	住宅設計	プランニング
	16	住宅設計	居間・食事室・寝室・子供部屋の空間の設計・Ipadを活用したプレゼンテーション
履修上の留意点			
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築プレゼンテーション	指導担当者名	増子 順一
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に15年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築CAD設計科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	建築設計においては複雑な形態の把握、構想、図面、模型等による形態表現力を必要とする。 建築設計の芸術的側面について、基礎を身につけるために制作の演習を通して形態、素材、色彩、表現方法等を習得しそれを様々な方法で伝えるプレゼン能力を養う。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布・パソコン・Ipad		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	住宅設計	建物の配置について(寸法・外構)
	2	住宅設計	配置図の作成・Ipadを活用したプレゼンテーション
	3	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	Ipad等を活用しての情報収集・情報の精査・情報発信のスキルについて
	4	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	設計アプリの操作方法について
	5	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	設計アプリを活用した図面制作
	6	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	完成した図面を用いてのプレゼンテーション
	7	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	画像編集アプリの操作方法について
	8	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	画像編集アプリを活用したプレゼンパネル制作
	9	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	編集した画像を用いてのプレゼンテーション
	10	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	動画編集アプリの操作方法について
	11	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	動画編集アプリを活用しての動画作成①
	12	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	動画編集アプリを活用しての動画作成①
	13	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	動画を用いてのプレゼンテーション
	14	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	動画編集アプリを活用しての動画作成②
	15	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	動画編集アプリを活用しての動画作成②
	16	Ipadを活用したプレゼンテーション技法の習得	動画を用いてのプレゼンテーション
	17		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	大工実習	指導担当者名	吉田 正吉
実務経験	工務店にて大工技能・施工管理業務に47年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	大工道具の使い方や手入れ方法を学び、木造の仕口と継手の割り出し図を作成し、実物の制作を実習する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	道具の使い方・簡単な加工	さしがね・のこぎり・のみの使い方墨付け・ほぞびき・ほぞ穴掘り
	2	木材加工①平ほぞ差し	墨付け・刻み
	3	木材加工②こしかけあり継手	墨付け・刻み
	4	木材加工②こしかけあり継手	刻み(下木)
	5	木材加工②こしかけあり継手	刻み(上木)
	6	木材加工③こしかけかま継手	墨付け・刻み
	7	木材加工③こしかけかま継手	刻み
	8	木材加工⑤ 木造軸組モデル	墨付け
	9	木材加工⑤ 木造軸組モデル	刻み(ほぞ穴)
	10	木材加工⑤ 木造軸組モデル	刻み(ほぞ穴)
	11	木材加工⑤ 木造軸組モデル	刻み(下木)
	12	木材加工⑤ 木造軸組モデル	刻み(上木)
	13	木材加工⑤ 木造軸組モデル	刻み(火打ち)
	14	木材加工⑤ 木造軸組モデル	刻み(垂木)
	15	木材加工⑤ 木造軸組モデル	各部の組立
	16	木材加工⑤ 木造軸組モデル	各部の組立
	17		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	インテリア実習	指導担当者名	五十嵐 信子
実務経験	住宅メーカーにてインテリアコーディネート業務に9年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	インテリアの提案に必要な色や素材、組み合わせなどを学び、よりよい住空間を提案する力を身に着ける。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	インテリアコーディネートとは	住宅・インテリアとは何か
	2	インテリアイメージを色彩	コーディネートのための色彩・色のイメージについて
	3	インテリアイメージを色彩	カラーコーディネート の法則・手順・法則例について
	4	インテリアを構成するもの	空間要素・物的要素
	5	インテリアを構成する建築材料	インテリアにまつわる建築材料
	6	インテリアを構成する建築材料	仕上げ材の種類
	7	インテリアを構成する建築材料	材料見本・質感・アクセント
	8	家具・アクセサリー	家具の歴史
	9	家具・アクセサリー	家具・観葉植物
	10	家具・アクセサリー	インテリアのサイズ・基本寸法
	11	住宅設備	キッチン設備
	12	住宅設備	照明設備・光源の違い・電球の種類
	13	プラン・コーディネートのポイント	リビング・ダイニング
	14	プラン・コーディネートのポイント	寝室・子供室
	15	プラン・コーディネートのポイント	書斎・その他
	16	プレゼンテーションテクニック	プレゼンテーションの重要性・ツールの種類
	17		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務	指導担当者名	大関 志歩
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	16時間	週時間数	1時間
学習到達目標	就職活動の手助けをし各自の就職の技術向上をはかる。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト ウイネット「ニューサクセス」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	就職活動の準備とスタート	就職活動の心構え(なぜ就職するのか・企業が求める人材とは)
	2	就職活動の準備とスタート	就職活動の心構え(身だしなみ)・就職活動の流れ
	3	就職活動の準備とスタート	就職活動の流れ(就職活動のルールと諸注意)
	4	就職活動の準備とスタート	就職活動の流れ(求職登録と校内模擬面接)
	5	自分と職業を理解する	自分自身を知る(自己分析で考えるポイント・自己PRの作り方)
	6	情報収集・企業研究	職業を知る(業種と職種・仕事と関連資格・企業研修)
	7	情報収集・企業研究	志望動機(志望動機の作り方)
	8	企業訪問の方法	作成書類(エントリーシート・履歴書の書き方)
	9	企業訪問の方法	企業訪問(企業訪問の準備・アポイントの取り方)
	10	企業訪問の方法	企業訪問(企業訪問のお礼状)
	11	就職試験の基本知識	面接試験対策(面接試験の形式)
	12	就職試験の基本知識	面接試験対策(受け答え)
	13	就職試験の基本知識	受験後の報告(内定の礼状)
	14	就職試験の基本知識	履歴書の作成
	15	就職試験の基本知識	履歴書の作成
	16	就職試験の基本知識	履歴書の作成
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築計画Ⅱ	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築計画Ⅰで学習したことをもとに、各種建築物の計画と応用を学習する。 時代と共に変化するニーズに自ら問題の発見と解決をする力を持つ都市の仕組みと構造、設計手法、都市計画の制度・手段、都市環境との関係性を理解する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい建築計画」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	2-6 美術館の計画	美術館の構成
	2	2-6 美術館の計画	美術館の構成
	3	2-6 美術館の計画	美術館の計画に関する重要事項・実例分析
	4	2-6 美術館の計画	美術館の計画に関する重要事項・実例分析
	5	2-6 美術館の計画	演習問題
	6	2-7 劇場の計画	劇場の構成・分類
	7	2-7 劇場の計画	劇場の構成・分類
	8	2-7 劇場の計画	劇場の計画の基本事項と必要諸室・舞台構成
	9	2-7 劇場の計画	劇場の計画の基本事項と必要諸室・舞台構成
	10	2-7 劇場の計画	演習問題
	11	2-7 劇場の計画	演習問題
	12	2-8 事務所の計画	事務所に関する計画上の重要事項・実例分析
	13	2-8 事務所の計画	事務所に関する計画上の重要事項・実例分析
	14	2-8 事務所の計画	留意事項
	15	2-8 事務所の計画	演習問題
	16	2-8 事務所の計画	演習問題
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築計画Ⅱ	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築計画Ⅰで学習したことをもとに、各種建築物の計画と応用を学習する。 時代と共に変化するニーズに自ら問題の発見と解決をする力を持つ都市の仕組みと構造、設計手法、都市計画の制度・手段、都市環境との関係性を理解する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい建築計画」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	1	2-9 ホテルの計画	ホテルの構成・種類と諸室・実例分析
	2	2-9 ホテルの計画	ホテルの構成・種類と諸室・実例分析
	3	2-9 ホテルの計画	演習問題
	4	2-9 ホテルの計画	演習問題
	5	2-10 病院・診療所の計画	構成・実例分析・留意事項
	6	2-10 病院・診療所の計画	構成・実例分析・留意事項
	7	2-10 病院・診療所の計画	構成・実例分析・留意事項
	8	2-10 病院・診療所の計画	演習問題
	9	2-10 病院・診療所の計画	演習問題
	10	2-11 商業建築の計画	商業建築の形式と分類・実例分析
	11	2-11 商業建築の計画	商業建築の形式と分類・実例分析
	12	2-11 商業建築の計画	商業建築の形式と分類・実例分析
	13	2-11 商業建築の計画	演習問題
	14	2-11 商業建築の計画	演習問題
	15	2-12 各種建築物の計画について	演習問題
	16	2-12 各種建築物の計画について	演習問題
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築法規Ⅱ	指導担当者名	水上 剛
実務経験	建築設計事務所にて建築設計・監理業務に6年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	防火制限と内装制限・避難施設・その他の規定の学習と構造強度、一般構造に関する規定の学習。 建築家が備えるべき安全性や快適性に関する基本的な知識を持つ。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい建築法規」「建築関係法令集」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	4章 防火制限と内装制限	用語の説明
	2	4章 防火制限と内装制限	火災に対する構造基準(耐火構造・準耐火構造)
	3	4章 防火制限と内装制限	(防火構造・耐火建築物・準耐火建築物)
	4	4章 防火制限と内装制限	耐火・準耐火建築物にしなければならない建築物
	5	4章 防火制限と内装制限	法22条 区域
	6	4章 防火制限と内装制限	火災の拡大を防ぐための規定(防火区画・構造)
	7	4章 防火制限と内装制限	(防火壁・界壁・間仕切壁・隔壁・内装制限)
	8	5章 避難施設	避難経路(避難施設の規定・直通階段の規定)
	9	5章 避難施設	(避難階段の分類・敷地内通路)
	10	5章 避難施設	非常用の避難施設(排煙設備・非常用の照明装置)
	11	5章 避難施設	(非常用の進入口・非常用昇降機)
	12	6章 構造強度	構造計算(構造計算の基準・許容応力度計算)
	13	6章 構造強度	(層間変形角・偏心率・剛性率・保有水平耐力)
	14	6章 構造強度	構造規定(耐久性等関係規定・構図部材の耐久・基礎の構造)
	15	6章 構造強度	(屋根葺き材・木造)
	16	6章 構造強度	(屋根葺き材・木造)
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築法規Ⅱ	指導担当者名	水上 剛
実務経験	建築設計事務所にて建築設計・監理業務に6年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	防火制限と内装制限・避難施設・その他の規定の学習と構造強度、一般構造に関する規定の学習。 建築家が備えるべき安全性や快適性に関する基本的な知識を持つ。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい建築法規」「建築関係法令集」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	1	6章 構造強度	(木造)
	2	6章 構造強度	(木造)
	3	6章 構造強度	(木造)
	4	6章 構造強度	構造規定(組積造)(補強コンクリートブロック造)
	5	6章 構造強度	構造規定(組積造)(補強コンクリートブロック造)
	6	6章 構造強度	(鉄骨造)(鉄筋コンクリート造)
	7	6章 構造強度	(鉄骨造)(鉄筋コンクリート造)
	8	7章 基準法のその他の規定	一つの敷地とみなすことによる制限の緩和・建築協定
	9	7章 基準法のその他の規定	一つの敷地とみなすことによる制限の緩和・建築協定
	10	7章 基準法のその他の規定	許可と同意・工事現場の安全等
	11	7章 基準法のその他の規定	許可と同意・工事現場の安全等
	12	8章 その他の法規	建築士法
	13	8章 その他の法規	建設業法(用語の定義・許可)(請負約款・紛争の処理・主任技術者・管理技術者の設置)
	14	8章 その他の法規	消防法・都市計画法
	15	8章 その他の法規	品確法・バリアフリー法
	16	8章 その他の法規	耐震改修促進法・その他
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	構造力学Ⅱ	指導担当者名	池田 時好
実務経験	構造設計事務所にて構造設計業務に15年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	静定ラーメン系の構造物の応力解法と不静定構造物への拡張、座屈、たわみについて演習を通して学習する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい構造力学」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	トラス	トラスの考え方・節点法
	2	トラス	図解法
	3	トラス	切断法
	4	断面に関する数量	図心
	5	断面に関する数量	断面2次モーメント①
	6	断面に関する数量	断面2次モーメント②
	7	断面に関する数量	断面係数①
	8	断面に関する数量	断面係数②
	9	応力度	軸応力度(引張応力度)
	10	応力度	軸応力度(圧縮応力度)
	11	応力度	曲げ応力度
	12	応力度	せん断応力度
	13	応力度	許容応力度
	14	応力度	許容曲げモーメント
	15	応力度	曲げ応力度と圧縮応力度との組み合わせ①
	16	応力度	曲げ応力度と圧縮応力度との組み合わせ②
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	構造力学Ⅱ	指導担当者名	池田 時好
実務経験	構造設計事務所にて構造設計業務に15年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	静定ラーメン系の構造物の応力解法と不静定構造物への拡張、座屈、たわみについて演習を通して学習する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「改訂版 図説 やさしい構造力学」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	座屈	座屈とは・座屈荷重①
	2	座屈	座屈荷重②
	3	座屈	演習問題
	4	たわみ	代表的なたわみ
	5	たわみ	たわみの求め方①
	6	たわみ	たわみの求め方②
	7	たわみ	演習問題
	8	不静定構造の基礎	不静定構造とは・基礎的解法①
	9	不静定構造の基礎	基礎的解法②
	10	不静定構造の基礎	演習問題
	11	塑性解析の基礎	弾性と塑性
	12	塑性解析の基礎	静定構造の崩壊と全塑性モーメント
	13	塑性解析の基礎	不静定構造の崩壊と崩壊荷重
	14	塑性解析の基礎	不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力
	15	塑性解析の基礎	演習問題①
	16	塑性解析の基礎	演習問題②
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築施工	指導担当者名	近内 広樹
実務経験	建設会社にて施工管理業務に5年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築物が一定の期間内に出来上がるまでの過程において、どのような技術にもとづいて完成していくのかを学び、建築技術者をを目指す者として施工の基礎的事項を習得する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 建築資料研究社「建築施工管理テキスト」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	地盤調査	目的・試験項目と方法
	2	仮設工事	仮設建築物・足場・架設通路・作業床・災害防止措置
	3	土工事・山留工事	土工事用語・山留の工法
	4	基礎・地業工事	杭地業・既製コンクリート杭・鋼杭・場所打ちコンクリート杭・地盤改良地業
	5	型枠工事	材料・設計・加工・組立・存置期間
	6	鉄筋工事	加工・組立・継手
	7	コンクリート工事	調合・製造・運搬・打込み・養生・品質管理・試験方法
	8	鉄骨工事	工場作業・溶接・現場作業・高力ボルト接合・耐火被覆工法
	9	特殊コンクリート工事	ALCパネル工事・押出成形セメント板・補強コンクリートブロック工事
	10	防水工事	種類と特徴・アスファルト、シート、塗膜防水、シーリング工事
	11	屋根工事	屋根ぶき種類と形式
	12	左官工事・張り石工事・タイル工事	セメントモルタル塗り・石膏プaster塗り・工法・道具・種類と特徴、工法
	13	金属工事・木工事	加工・軽量鉄骨下地・金属製品の取り付け・工程・継手・仕口・造作工事
	14	ガラス工事	保管・施工法
	15	建具工事・塗装工事	工法・金物・分類、適応素材
	16	内装工事	共通材料・床工事・壁・天井工事
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築材料	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	各種建築材料の性能や構造的な特性について、十分な知識が必要である。 建築材料を使用するときの問題点や注意点について、学習する。専門家として必要とされる建築材料の基礎知識を習得する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「図説 やさしい建築材料」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	建築材料基礎	木材
	2	建築材料基礎	セメント・骨材・コンクリート
	3	建築材料基礎	石材
	4	建築材料基礎	金属材料
	5	建築材料基礎	左官材料
	6	建築材料基礎	粘土製品
	7	建築材料基礎	ガラス
	8	建築材料基礎	石油アスファルト
	9	建築材料基礎	塗料
	10	建築材料基礎	プラスチック
	11	建築材料基礎	リノリウム・畳
	12	建築材料基礎	防火・断熱・防音・遮音材料
	13	構造用材料	木質系材料
	14	構造用材料	鉄筋コンクリート系材料
	15	構造用材料	鉄骨系材料
	16	構造用材料	その他の構造材料
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築材料	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	各種建築材料の性能や構造的な特性について、十分な知識が必要である。 建築材料を使用するときの問題点や注意点について、学習する。専門家として必要とされる建築材料の基礎知識を習得する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「図説 やさしい建築材料」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	仕上げ用材料	概要・床用材料
	2	仕上げ用材料	概要・床用材料
	3	仕上げ用材料	概要・床用材料
	4	仕上げ用材料	壁・天井・屋根用材料
	5	仕上げ用材料	壁・天井・屋根用材料
	6	仕上げ用材料	壁・天井・屋根用材料
	7	仕上げ用材料	開口部用材料・塗装・接着用材料
	8	仕上げ用材料	開口部用材料・塗装・接着用材料
	9	仕上げ用材料	開口部用材料・塗装・接着用材料
	10	防火性・耐火性材料	概要・構造物
	11	防火性・耐火性材料	概要・構造物
	12	防火性・耐火性材料	概要・構造物
	13	機能性材料	断熱用材料・音響用材料
	14	機能性材料	断熱用材料・音響用材料
	15	機能性材料	断熱用材料・音響用材料
	16	機能性材料	断熱用材料・音響用材料
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築設備	指導担当者名	佐澤 克郎
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に19年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	総論、給水設備、排水設備、給湯設備、ガス設備、消火設備、空調設備、電気設備。防災設備、設備計画、設備設計(給排水、空気調和、電気、防災)について学習する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト エクスナレッジムック「世界で一番やさしい 建築設備」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	建築設備概論	建築設備とは・地球環境と建築設備
	2	給排水衛生設備	給排水衛生設備とは・給水設備
	3	給排水衛生設備	給湯設備・ガス設備
	4	給排水衛生設備	排水・通気設備・排水処理設備
	5	給排水衛生設備	衛生器具設備・消化設備
	6	空気調和設備	空気調和設備とは・空気調和と室内環境
	7	空気調和設備	空気の状態を知る・空調付加の考え方
	8	空気調和設備	空気調和方式の種類・特徴と設備計画
	9	空気調和設備	熱源・熱搬送設備と機器部材
	10	空気調和設備	換気・排煙設備・自動制御設備
	11	電気設備	電気設備とは・受変電・幹線設備
	12	電気設備	動力設備
	13	電気設備	自家発電・蓄電池設備
	14	電気設備	照明・コンセント設備
	15	電気設備	情報設備
	16	搬送設備	エレベータ・エスカレータ
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築製図Ⅱ	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	RC造・S造の課題を中心に学習する。設計課題を的確に読み取る能力とその内容を明確に形に表し、図面に反映させる能力を学習する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 市ヶ谷出版「超入門 建築製図 第五版」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	鉄筋コンクリート(RC)造 建築物	建物の概要・RC造の特徴(ラーメン構造・貸事務所)
	2	1階平面図(ラーメン構造)	描き方の手順・作図
	3	1階平面図(ラーメン構造)	作図
	4	1階平面図(ラーメン構造)	作図
	5	1階平面図(ラーメン構造)	作図
	6	2階平面図	描き方の手順・作図
	7	2階平面図	作図
	8	2階平面図	作図
	9	2階平面図	作図
	10	断面図	RC造断面図の注意点・書き方の手順・作図
	11	断面図	作図
	12	断面図	作図
	13	断面図	作図
	14	立面図	RC造立面図の注意点・書き方の手順・作図
	15	立面図	作図
	16	立面図	作図
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築製図Ⅱ	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	RC造・S造の課題を中心に学習する。設計課題を的確に読み取る能力とその内容を明確に形に表し、図面に反映させる能力を学習する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 市ヶ谷出版「超入門 建築製図 第五版」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	1	矩計図	RC造矩計図の注意点・各部の説明
	2	矩計図	描き方の手順・作図
	3	矩計図	作図
	4	矩計図	作図
	5	矩計図	作図
	6	階段詳細図 平面図	描き方の手順・作図
	7	階段詳細図 平面図	作図
	8	階段詳細図 平面図	作図
	9	階段詳細図 平面図	作図
	10	階段詳細図 断面図	描き方の手順・作図
	11	階段詳細図 断面図	作図
	12	階段詳細図 断面図	作図
	13	階段詳細図 断面図	作図
	14	構造図 床伏図	描き方の手順・作図
	15	構造図 床伏図	作図
	16	構造図 床伏図	作図
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築材料実験	指導担当者名	近内 広樹
実務経験	建設会社にて施工管理業務に5年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	18時間	週時間数	3時間
学習到達目標	建築材料実験では、コンクリートとその構成材料・RC造に使用されている鋼材の鉄筋に関して実験を行う。 材料実験の意義や実験データのまとめ方も含めて実験レポートを作成する。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「図説 やさしい建築一般構造」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	材料実験(コンクリート・鉄筋)	木材・セメント・骨材・コンクリート(説明)
	2	コンクリート実験について	調査設計・コンクリート作成の手順
	3	コンクリート実験について	骨材実験・コンクリート作成・供試体作成
	4	コンクリート実験について供試体制作	脱枠・水中養生
	5	鉄筋引張試験	鉄筋の特徴
	6	実験	コンクリート圧縮強度試験・鉄筋引張強度試験の実施
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	測量実習	指導担当者名	近内 広樹
実務経験	建設会社にて施工管理業務に5年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	18時間	週時間数	3時間
学習到達目標	建築測量の作業内容を知り、平板測量・水準測量を実習し測量の基本を学ぶ		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 学芸出版社「図説 やさしい建築一般構造」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	測量実習	測量について
	2	平板測量	平板を使った測量実習
	3	水準測量	水準測量の説明・水準測量実習
	4	トランシット測量	トランシット測量の説明
	5	トランシット測量	トランシット測量実習
	6	トランシット測量	レポート作成
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	建築造形	指導担当者名	佐澤 克郎
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に19年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	建築設計について学習してきた内容を活かし 各自の課題を建築模型として表現しスケール感・ボリューム感の感覚をつかむ		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	設計の業務	建築模型の役割について
	2	建築模型の作り方(基本)	建築模型用の図面作成について
	3	建築模型の作り方(基本)	道具の使い方
	4	建築模型の作り方(基本)	簡単な立方体の作り方
	5	建築模型の作り方(基本)	敷地の作り方
	6	建築模型の作り方(基本)	平面(各階床)の作り方
	7	建築模型の作り方(基本)	立面(外壁)の作り方
	8	建築模型の作り方(基本)	家具の作り方
	9	住宅模型製作	図面の作成
	10	住宅模型製作	図面の作成
	11	住宅模型製作	材料の切り出し
	12	住宅模型製作	敷地・平面の作成
	13	住宅模型製作	敷地・平面の作成
	14	住宅模型製作	外壁の作成
	15	住宅模型製作	外壁の作成
	16	住宅模型製作	家具の作成
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	総合演習	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	96時間	週時間数	6時間
学習到達目標	公共性のある建物をテーマに設計演習を行う。 毎回の授業で進捗のプレゼンテーションを実施し ポイントごとに(企画・建築的アイデアなど)時間を設けてプレゼンテーションを実施 企画力と建築の表現力・プレゼンテーション能力を高める		
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 前 期	1	課題① 企画	テーマの決定・敷地設定・調査結果報告
	2	企画	テーマの決定・敷地設定・調査結果報告
	3	企画プレゼン	コンセプト確定(プレゼン)・ストーリー(仮設)
	4	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	5	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	6	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	7	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	8	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	9	企画プレゼン	建築的アイデア確定(プレゼン)
	10	プレゼンボード素材作成	図面・模型・3D等の作成
	11	プレゼンボード素材作成	図面・模型・3D等の作成
	12	プレゼンボード素材作成	図面・模型・3D等の作成
	13	プレゼンボード素材作成	図面・模型・3D等の作成
	14	プレゼンボード作成	プレゼンボードデザイン案確定
	15	プレゼンボード作成	ボード作成
	16	プレゼンテーション・評価	プレゼンテーション
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	総合演習	指導担当者名	大関 志歩
実務経験	建設会社にて施工管理業務に1年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	96時間	週時間数	6時間
学習到達目標	公共性のある建物をテーマに設計演習を行う。 毎回の授業で進捗のプレゼンテーションを実施し ポイントごとに(企画・建築的アイデアなど)時間を設けてプレゼンテーションを実施 企画力と建築の表現力・プレゼンテーション能力を高める		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	課題② 企画	テーマの決定・敷地設定・調査結果報告
	2	企画	テーマの決定・敷地設定・調査結果報告
	3	企画プレゼン	コンセプト確定(プレゼン)・ストーリー(仮設)
	4	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	5	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	6	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	7	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	8	企画プレゼン	建築的アイデア模索
	9	企画プレゼン	建築的アイデア確定(プレゼン)
	10	プレゼンボード素材作成	図面・模型・3D等の作成
	11	プレゼンボード素材作成	図面・模型・3D等の作成
	12	プレゼンボード素材作成	図面・模型・3D等の作成
	13	プレゼンボード素材作成	図面・模型・3D等の作成
	14	プレゼンボード作成	プレゼンボードデザイン案確定
	15	プレゼンボード作成	ボード作成
	16	プレゼンテーション・評価	プレゼンテーション
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	刈谷 昌平
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に21年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	96時間	週時間数	6時間
学習到達目標	建築設計・建築施工について学習してきた内容を活かしそれぞれにテーマを設け、卒業制作を行う。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	卒業課題 企画	テーマの検討
	2	企画	テーマの検討
	3	企画	テーマの検討
	4	企画	テーマの決定・敷地(条件)の設定
	5	企画	テーマの決定・敷地(条件)の設定
	6	企画	調査
	7	企画	調査
	8	企画	調査
	9	企画	調査
	10	企画	コンセプトメイキング
	11	企画	コンセプトメイキング
	12	企画	コンセプト確定
	13	企画	ストーリーの作成
	14	企画	ストーリーの作成
	15	企画	企画書作成
	16	企画プレゼン	評価
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	刈谷 昌平
実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務に21年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	建築デザイン科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	96時間	週時間数	6時間
学習到達目標	建築設計・建築施工について学習してきた内容を活かし、それぞれにテーマを設け、卒業制作を行う。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・提出課題の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	作品制作	CADを使った図面作成
	2	作品制作	CADを使った図面作成
	3	作品制作	CADを使った図面作成
	4	作品制作	CADを使った図面作成
	5	作品制作	CADを使った図面作成
	6	作品制作	CADを使った図面作成
	7	作品制作	CADを使った図面作成
	8	作品制作	BIMを使ったプレゼン資料の作成
	9	作品制作	BIMを使ったプレゼン資料の作成
	10	作品制作	BIMを使ったプレゼン資料の作成
	11	作品制作	BIMを使ったプレゼン資料の作成
	12	作品制作	BIMを使ったプレゼン資料の作成
	13	作品制作	プレゼンボードの作成
	14	作品制作	プレゼンボードの作成
	15	作品制作	プレゼンボードの作成
		16	プレゼンテーション・評価
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			